

社会科教育講座 根田 克彦 教授



イギリスとアメリカと日本の都市の比較



キーワード 都市地理学/ 地誌学/ 都市計画/ タウンセンターファースト政策/

どのような研究をなぜ行っているか

海外研究は必要でしょうか…？

海外の方が地元を詳しく知っている。
→海外の地誌を翻訳すれば安い…しかし…

日本人による海外研究は必要です。

たとえば、イギリス人が作成した優れた地誌でも、日本と比較する視点がありません。**日本人のイギリス研究は、日本との比較という視点を持ちます。**海外の優れた点を吸収して、日本の社会をもっとよくするために必要となるのが「地誌学」です。単なる、海外のトピック集めではありません。

また、日本では当たり前なことが、海外から奇妙に思われる場合もあります。それをいい悪い、と思うのではなく、**日本=自分を相対化する視点を養う**ためにも、海外研究を行う価値があります。



研究成果をどのように活用し、どのような貢献ができるか

日本の政策を評価する際には、日本だけの視点からだ、客観的な判断は難しくなります。海外の同じ事例と比較することにより、日本の政策の短所と長所を浮き彫りにすることができます。それにより、現在の政策の改善点を指摘することができ、より住みやすい社会をつくることに貢献することができる、かもしれません。

日本を海外に紹介する際に、海外の同じ事例と比較しながら紹介すると、日本の地域性を明瞭に紹介することができます。海外に出ると、日本のことが質問されます。その際に、その国の実態に合わせて、日本を説明できると、尊敬されるかもしれません。

これまでの連携研究や社会貢献活動の実績

- ・ 経済産業省 地域まちなか活性化・魅力創出支援事業費補助金（中心市街地活性化支援事業）審査委員 2018年～2022年
- ・ 日本学術振興会特別研究員審査会専門委員・卓越研究候補者選考委員会書面審査員及び国際事業委員会書面審査員・書面評価員 2021年～2022年
- ・ 奈良家庭裁判所委員会委員2020年～
- ・ 大和高田市都市計画審議会委員2020年～
- ・ 奈良県上牧町学校適正化協議会委員長2020年～2022年
- ・ 奈良県田原本町都市計画審議会委員長 2008年～